

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第5410809号
(P5410809)

(45) 発行日 平成26年2月5日(2014.2.5)

(24) 登録日 平成25年11月15日(2013.11.15)

(51) Int.Cl. F 1
A 4 2 B 1/24 (2006.01) A 4 2 B 1/24 N

請求項の数 4 (全 8 頁)

<p>(21) 出願番号 特願2009-81163 (P2009-81163) (22) 出願日 平成21年3月30日 (2009.3.30) (65) 公開番号 特開2010-229609 (P2010-229609A) (43) 公開日 平成22年10月14日 (2010.10.14) 審査請求日 平成24年3月5日 (2012.3.5)</p>	<p>(73) 特許権者 307002389 佐野 雄哉 東京都練馬区平和台4-26-8-706 (74) 代理人 100076369 弁理士 小林 正治 (74) 代理人 100144749 弁理士 小林 正英 (74) 代理人 100158883 弁理士 甲斐 哲平 (72) 発明者 橋本 勝 群馬県高崎市緑町4丁目2番1号 株式会 社大富スプリング内 審査官 新田 亮二</p>
--	--

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 メガネ掛け具及びメガネ掛け具付き頭部装身具

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

頭部装身具に脱着可能であり、頭部装身具への装着時にメガネの蔓を係止すると、メガネを頭部装身具に掛けることができるメガネ掛け具において、

前記メガネ掛け具は裏材と表材を備え、

前記裏材と表材は一本のパネ線材を折り返して形成され、折返し部を支点として互いに離れる方向に拡げると元の形に戻ろうとする戻り弾性力を備え、表材を頭部装身具の下部周縁の表側に、裏材を当該下部周縁の裏側に宛がって当該下部周縁を挟むと、前記戻り弾性力により当該下部周縁が表材と裏材で挟着保持することができ、

前記表材の下側にはリング状に巻かれたスプリング部が形成され、当該スプリング部より上方にメガネの蔓を保持できる蔓係止部が設けられ、

前記表材の上端部は外側広がり形成されて、前記下部周縁への装着時に頭部装身具から離れて頭部装身具との間にメガネの蔓を出し入れ可能なガイド部が形成されるようにしてある、

ことを特徴とするメガネ掛け具。

【請求項2】

請求項1記載のメガネ掛け具において、

表材であってリング状のスプリング部よりも上側に、下方支持点と上方支持点が上下方向に離れて形成され、

前記下方支持点と上方支持点は頭部装身具の下部周縁への装着時に当該下部周縁の外側

10

20

に当接できるように内側向きに突設され、

メガネの蔓が収まる蔓係止部が前記下方支持点と上方支持点の間に設けられた、
ことを特徴とするメガネ掛け具。

【請求項 3】

請求項 1 又は請求項 2 記載のメガネ掛け具において、
裏材の上部に、頭部装身具の折り返された裏地に係止可能なフックを備えた、
ことを特徴とするメガネ掛け具。

【請求項 4】

帽子、サンバイザー等の頭部装身具において、
請求項 1 から請求項 3 のいずれか 1 項に記載のメガネ掛け具が、前記メガネ掛け具の裏 10
材と表材で頭部装身具の下部周縁を挟着保持して、頭部装身具の下部周縁の周方向二以上
の箇所に取り付けられた、

ことを特徴とするメガネ掛け具付き頭部装身具。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本願発明は、メガネを使用する者が、帽子、ヘアバンド、鉢巻、サンバイザーなどの頭部装身具を被って作業する際に、一時外したメガネを掛けるためのメガネ掛け具と、そのメガネ掛け具を備えたメガネ掛け具付き頭部装身具に関するものである。

【背景技術】

20

【0002】

工場で作業する際、作業中に頭髪を巻き込まれないため、あるいは汗が流れ落ちるのを抑えるため、帽子、ヘアバンド、鉢巻、サンバイザーなど（以下、「頭部装身具」という）を被ることがある。また、日曜大工のような作業をする際、あるいは園芸を楽しむ際など屋外で作業する際、日除けのため、あるいは汗が流れ落ちるのを抑えるため、頭部装身具を被ることがある。これら作業時に、老眼鏡やサングラス（以下、「メガネ」という）を掛けることもあるが、このメガネは掛けたり外したりするものであり、頭部装身具を被っている場合、その外したメガネを頭部装身具の鏝の上に載せておくことがある。ところが、頭部装身具の鏝の上に載せたメガネは不安定な状態であり、作業中にメガネを落とすこともあり、その都度メガネを戻さなければならないという面倒があった。

30

【0003】

そこで特許文献 1 のように、作業中でもメガネを頭部装身具に掛けておけるよう、メガネ掛け用の輪奈部材を取り付けた作業用被り物が提案されている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献 1】特開 2006 - 249634

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

40

本願発明の課題は、下記のような問題点を解決することにある。

(1) 作業中、頭部装身具の鏝部分に載せたメガネは不安定な状態となり、メガネを落とすことがある。

(2) 特許文献 1 のメガネ掛け用の輪奈部材は、頭部装身具に縫着固定されているので、他の頭部装身具に転用することができない。

(3) また特許文献 1 では、縫着固定されているためメガネサイズにあわせて輪奈部材の取り付け位置を調整することができず、種々のメガネに対応することが難しい。

(4) 特許文献 1 では、メガネ掛け用の輪奈部材にメガネを掛けるため、面ファスナによる開閉操作を行う必要があり、他の作業は中断してメガネ掛けを行うという面倒が生じる。

50

【課題を解決するための手段】

【0006】

本願発明のメガネ掛け具は、頭部装身具に脱着可能であり、頭部装身具への装着時にメガネの蔓を係止すると、メガネを頭部装身具に掛けることができるメガネ掛け具において、前記メガネ掛け具は裏材と表材を備え、前記裏材と表材は一本のバネ線材を折り返して形成され、折返し部を支点として互いに離れる方向に拡げると元の形に戻ろうとする戻り弾性力を備え、表材を頭部装身具の下部周縁の表側に、裏材を当該下部周縁の裏側に宛がって当該下部周縁を挟むと、前記戻り弾性力により当該下部周縁が表材と裏材で挟着保持することができ、前記表材の下側にはリング状に巻かれたスプリング部が形成され、当該スプリング部より上方にメガネの蔓を保持できる蔓係止部が設けられ、前記表材の上端部は外側広がり形成されて、前記下部周縁への装着時に頭部装身具から離れて頭部装身具との間にメガネの蔓を出し入れ可能なガイド部が形成されるようにしたものである。

10

【0007】

本願発明のメガネ掛け具は、前記メガネ掛け具の表材であってリング状のスプリング部よりも上側に、下方支持点と上方支持点が上下方向に離れて形成され、前記下方支持点と上方支持点は頭部装身具の下部周縁への装着時に当該下部周縁の外側に当接できるように内側向きに突設され、メガネの蔓が収まる蔓係止部が前記下方支持点と上方支持点の間に設けられたものとする。本願発明のメガネ掛け具は、裏材の上部に、頭部装身具の折り返された裏地に係止可能なフックを備えたものとする。こともできる。

20

【0008】

本願発明のメガネ掛け具付き頭部装身具は、帽子、サンバイザー等の頭部装身具において、前記いずれかのメガネ掛け具が、前記メガネ掛け具の裏材と表材で頭部装身具の下部周縁を挟着保持して、頭部装身具の下部周縁の周方向二以上の箇所に取り付けられたものである。

【発明の効果】

【0009】

本願発明のメガネ掛け具は、以下に示す効果がある。

(1)メガネの蔓を係止させる蔓係止部を備えているので、これに係止されたメガネは安定し、安心して作業を行うことができる。

(2)頭部装身具に脱着可能な取り付け部を備えているので、頭部装身具への脱着が容易であり、種々の頭部装身具に転用することができる。

(3)上方からこの蔓係止部まで蔓を案内し得るガイド部を備えているので、容易にメガネをメガネ掛け具に係止させ又は取り外すことができる。

30

【0010】

本願発明のメガネ掛け具付き頭部装身具は、以下に示す効果がある。

(1)本願発明のメガネ掛け具があるため、掛けられたメガネは安定し、安心して作業を行うことができるとともに、頭部装身具により作業中に頭髪を巻き込まれず、汗が流れ落ちるのを抑え、日射を避けながら作業を行うことができる。

(2)メガネ掛け具に掛けられたメガネは安定するので、メガネを掛けたままの状態で帽子を収納しておくこともできる。

40

【図面の簡単な説明】

【0011】

【図1】本願発明のメガネ掛け具を帽子に取り付け、さらにメガネを掛けた状態の斜視図。

【図2】本願発明のメガネ掛け具の斜視図。

【図3】本願発明のメガネ掛け具を帽子に取り付けた状態の帽子断面図。

【図4】本願発明のメガネ掛け具を帽子に取り付けた状態の斜視図。

【発明を実施するための形態】

【0012】

(実施形態1)

50

本願発明のメガネ掛け具及びメガネ掛け具付き頭部装身具の一実施形態を図に基づいて説明する。この実施形態では、鍔付きの帽子にメガネ掛け具を取り付け、これにメガネを掛けた例を説明しているが、本願発明におけるメガネ掛け具付き頭部装身具は鍔付きの帽子に限らず鍔のない帽子、ヘアバンド、鉢巻、サンバイザーなどの他の頭部装身具であっても構わない。またメガネは、老眼用メガネ、近視用メガネ、乱視用メガネ、サングラスなど、どのような種類のメガネであっても構わないことは言うまでもない。

【0013】

図1は、帽子1の左右側面に夫々1箇所ずつ本願発明のメガネ掛け具2を取り付け、このメガネ掛け具2が備える蔓係止部3にメガネ4の蔓を係止させることで、メガネ4を帽子1上に掛けた状態を示す図である。この図では、メガネ4のレンズ部分を帽子1の鍔の上に乗せているが、メガネ4の左右の蔓はメガネ掛け具2に支えられて安定しているため、必ずしもレンズ部分を帽子1の鍔の上に乗せる必要はなく、鍔のない頭部装身具に本願発明のメガネ掛け具2を利用することもできるし、鍔を後方に回して着帽した場合でも利用することができる。

10

【0014】

図2は、メガネ掛け具2の斜視図である。このメガネ掛け具2は、1本の線條物で形成され、鉄や他の金属、合金、ゴムなど弾性変形を生じ得る弾性体からなる。メガネ掛け具2は、主に2本の表材5と2本の裏材6からなり、これら表材5と裏材6は折返し部7で折り返されて対向している。2本の表材5の夫々には、順にスプリング部8、下方支持点9、係止頂点10、上方支持点11、頂部12が設けられている。これらは1本の弾性体線條物を加工して作成されているが、2本以上の弾性体線條物を組み合わせて作成してもよいし、板状の弾性体（いわゆる板バネ）を加工して作成してもよいし、その他棒状の弾性体など弾性体であれば任意のもので形成することができる。

20

【0015】

図3は、後方から見た帽子1の中央付近の断面図であり、左右2箇所にメガネ掛け具2を取り付けた状態を示す。

メガネ掛け具2は、帽子1の側面を表材5と裏材6で挟持（いわゆるクリップ）することによって取り付けられ、その挟持する力は素材の持つ弾性力を利用したものである。すなわち、折返し部7を支点に表材5と裏材6を拡げるとメガネ掛け具2は蓄勢され、これが弾性力（元の形に戻ろうとする力）となって帽子1の側面を挟持する。

30

【0016】

裏材6は略全長に亘って帽子1の裏地16に接しているが、表材5は折返し部7から下方支持点9までの間と上方支持点11で帽子1の表地に接している。いわば、帽子1表面側は折返し部7から下方支持点9の間と上方支持点11で、帽子1裏面側は裏材6で、帽子1の側面を挟持することとなる。

【0017】

メガネ掛け具2を帽子1から取り外すときは、スプリング部8を摘んで側方に拡げながらメガネ掛け具2を下方に移動させることで取り外すこともできるし、単に帽子1の側面に挟持させたままメガネ掛け具2を下方に滑らせるように移動させて取り外すこともできる。

40

【0018】

下方支持点9と上方支持点11、さらに係止頂点10と帽子1の表面とで略三角形の空間が形成され、この空間を蔓係止部3としてメガネ4の蔓を係止させることができる。この空間はメガネ4の蔓を収容できる程度の広さを備えており、上方は上方支持点11で、下方は下方支持点9で閉鎖されているため、蔓係止部3に収容されたメガネ4の蔓は容易に上下から離脱しない。

【0019】

表材5は、上方支持点11より上方で帽子1の表面から離れる方向に頂部12まで伸びたガイド材（上方支持点11から頂部12までの間の部材）によって、帽子表面との間に開放された空間ガイド部13を成している。このガイド部13は、メガネ4の蔓を蔓係止

50

部 3 まで円滑に案内し、あるいはメガネ 4 の蔓を蔓係止部 3 から円滑に抜き出すために設けられている。

【 0 0 2 0 】

スプリング部 8 は、これより上方の表材 5 (スプリング部 8 ~ 頂部 1 2) を弾性変形させるためのものであり、例えばメガネ 4 の蔓が上方支持点 1 1 と帽子 1 の表面との間を通過する際には上方支持点 1 1 が側方に広がるが、蔓の通過後はスプリング部 8 の効果で再び上方支持点 1 1 は帽子 1 の表面に接して蔓係止部 3 の空間を閉鎖する。このようにスプリング部 8 より上方の表材 5 (スプリング部 8 ~ 頂部 1 2) のみを弾性変形させることで、スプリング部 8 より下方の表材 5 (折返し部 7 ~ スプリング部 8) は常に帽子 1 の表面に接していることとなり、安定して帽子 1 の側面を挟持することができる。

10

【 0 0 2 1 】

(実施形態 1 の使用例)

本実施形態におけるメガネ掛け具及びメガネ掛け具付き頭部装身具の使用例を図 1 と図 3 に基づいて説明する。

(1) メガネ 4 の幅や蔓の長さに合うよう、メガネ掛け具 2 を帽子 1 に取り付ける概略位置の見当をつける。

(2) 前記概略の取り付け位置で帽子 1 の側面に、メガネ掛け具 2 を頂部 1 2 側から表材 5 と裏材 6 で挟むように挿入させ、折返し部 7 が帽子 1 の側面端部に当接するまでメガネ掛け具 2 をスライドさせていく。その際、例えばスプリング部 8 などメガネ掛け具 2 の一部を摘んで側方に広げながらスライドさせると、本手順は容易に行える。

20

(3) 上記要領で左右 2 箇所メガネ掛け具 2 を取り付ける。

(4) ガイド材 (上方支持点 1 1 ~ 頂部 1 2) と帽子 1 表面で形成されるガイド部 1 3 の中に、上方からメガネ 4 の蔓を挿入する。

(5) メガネ 4 の蔓を下方へ引き込むと、このメガネ 4 の蔓は上方支持点 1 1 まで案内されて移動する。

(6) さらにメガネ 4 の蔓を下方へ引き込むと、スプリング部 8 の効果で上方支持点 1 1 は側方 (帽子から離れる方向) に移動し、メガネ 4 の蔓は上方支持点 1 1 と帽子 1 表面の間を通過する。

(7) メガネ 4 の蔓が、蔓係止部 3 の空間内に収容されると、スプリング部 8 の効果で再び上方支持点 1 1 は帽子 1 の表面に接して蔓係止部 3 の空間を閉鎖する。

30

(8) メガネ 4 をメガネ掛け具 2 から取り外すときは、上記とは逆の要領で、メガネ 4 の蔓を上方に引き上げ、上方支持点 1 1 と帽子 1 表面の間を通過させて前記ガイド部 1 3 からメガネ 4 の蔓を抜き取る。

(9) またメガネ掛け具 2 を帽子 1 から取り外すときは、帽子 1 の側面に挟持させたままメガネ掛け具 2 を下方にスライドさせて行う。その際、例えばスプリング部 8 などメガネ掛け具 2 の一部を摘んで側方に広げながらスライドさせると、本手順は容易に行える。

【 0 0 2 2 】

なお上記使用例に代えて、蔓係止部 3 の前方から直接メガネ 4 の蔓を抜き差しするように、メガネ 4 をメガネ掛け具 2 から脱着してもよい。また上記使用例では、帽子 1 の 2 箇所にメガネ掛け具 2 を取り付けた例で説明したが、帽子 1 の 1 箇所又は 3 か所以上にメガネ掛け具 2 を取り付けてもよい。

40

【 0 0 2 3 】

(実施形態 2)

本願発明のメガネ掛け具及びメガネ掛け具付き頭部装身具の他の実施形態を図に基づいて説明する。この実施形態は、弾性力によって挟持させる手段に代えて、フック方式を利用してメガネ掛け具 2 を帽子 1 に取り付ける場合を説明するためのものであって、基本的構造等は実施形態 1 と共通する。

なお、実施形態 1 ではメガネ掛け具 2 を弾性体としているが、本実施形態ではフック方式を利用するため必ずしも弾性体とする必要がなく、メガネ 4 を支えられる強度があれば弾性体に限らず任意のものを使用することができる。

50

【 0 0 2 4 】

本実施形態の蔓係止部 3 は、図 2 に示すように裏材 6 にフック 1 4 が設けられている。このフック 1 4 は、裏材 6 をフック頂部 1 5 で折り返して形成されたものである。

【 0 0 2 5 】

例えば図 3 や図 4 に示すように、帽子 1 の裏側に折り返された裏地 1 6 にフック 1 4 を掛けて、帽子 1 にメガネ掛け具 2 を取り付けることができる。フック 1 4 の先端には返し部 1 7 (図 2) が設けられており、この湾曲した返し部 1 7 が裏地 1 6 に接触する(図 3) こととなるので、裏地 1 6 が傷つきにくいという効果がある。

【 0 0 2 6 】

(その他の実施形態)

弾性力による挟持させる手段や、フック方式に限らず、帽子 1 に対してメガネ掛け具 2 を脱着させることができるものであれば、他の脱着手段や脱着方式を選択することができる。

【産業上の利用可能性】

【 0 0 2 7 】

本願発明のメガネ掛け具及びメガネ掛け具付き頭部装身具は、工場作業や屋外作業に限らず、医師や看護師が利用したり、屋内事務や学習時に鉢巻を着けて利用したり、スポーツを行う際に利用したり、種々の状況で応用することができる。

【符号の説明】

【 0 0 2 8 】

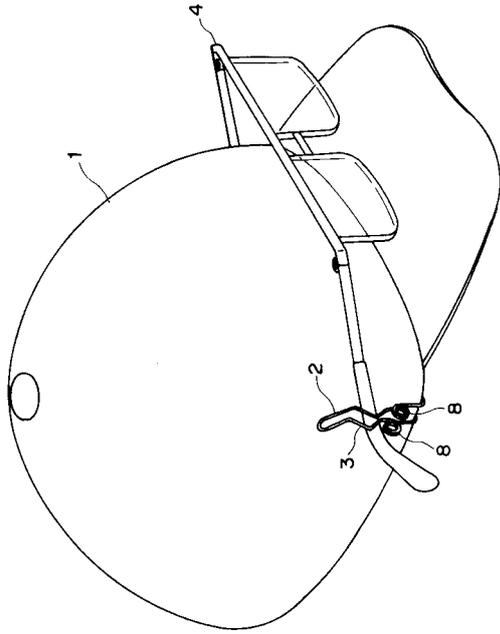
- 1 帽子
- 2 メガネ掛け具
- 3 蔓係止部
- 4 メガネ
- 5 表材
- 6 裏材
- 7 折返し部
- 8 スプリング部
- 9 下方支持点
- 10 係止頂点
- 11 上方支持点
- 12 頂部
- 13 ガイド部
- 14 フック
- 15 フック頂部
- 16 裏地
- 17 返し部

10

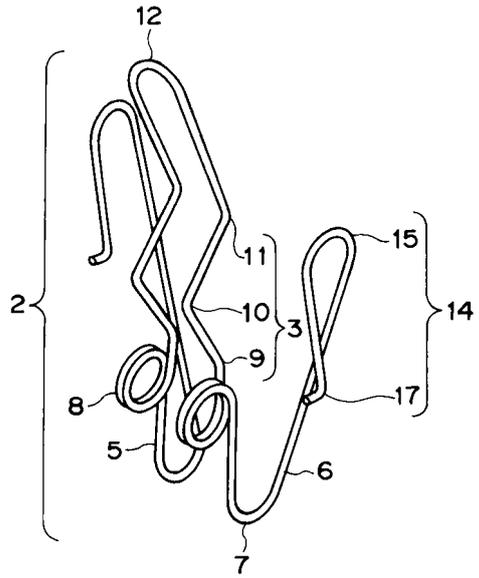
20

30

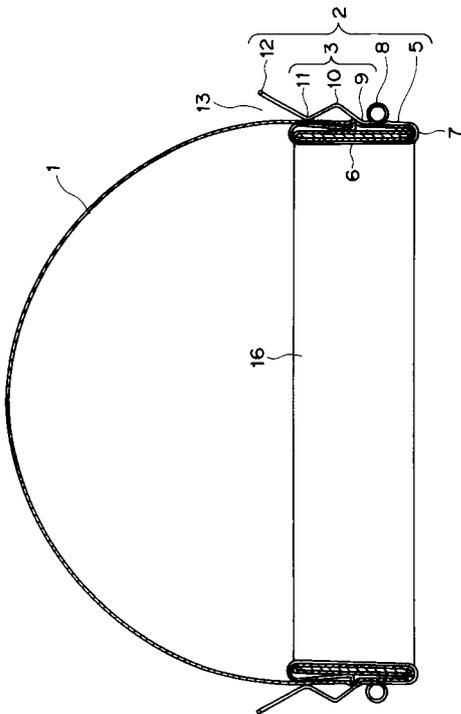
【図1】



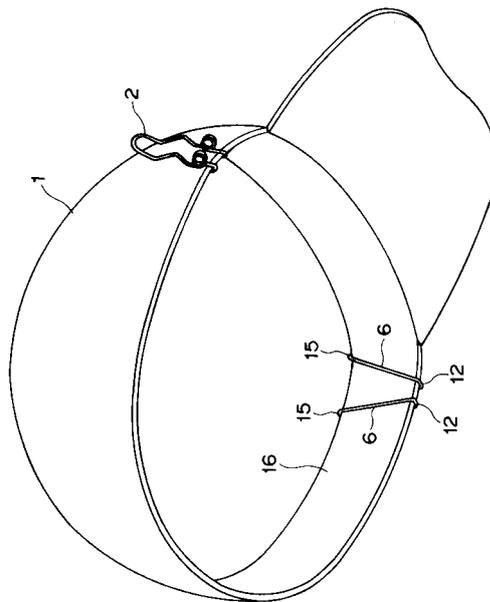
【図2】



【図3】



【図4】



フロントページの続き

(56)参考文献 特表2006-514174(JP,A)
実開平02-008989(JP,U)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A 4 2 B	1 / 0 0	-	1 / 2 4
A 4 2 C	5 / 0 0		
A 4 2 B	3 / 0 0	-	7 / 0 0
A 4 4 B	9 9 / 0 0		